

## あごら

MINI

&lt;46号&gt;

1981年1月10日発行 ¥100 円25

- 何でも言える●何でも書けるミニ雑誌<あごらミニ>
- 小さな<ひろば>=AGORA・<あごら>
- あなたの声を待ってます。みんなでつくる<あごら>

新年おめでとございます。

一九八一年の年頭にあたり、今年をどう生きようかと考えるとき、何といつても頭に浮かぶのは女性差別撤廃条約の批准問題です。

元始、太陽であった女性に、その後の歴史の流れの中で次第に雲に包まれ、能力を正當に発揮できないばかりか、女というだけでいやしめられ、しいたげられてきました。憲法で男女平等がうたわれた現在でさえも、女が何かすれば出しやばりと言われ、男の言いなりになる女がかわいい女とされています。主婦は夫や子どもに気がねし、家事に縛られて外出もできず、自由な人間としての行動を阻害されています。本や新聞を読みニュースを聞く女はなまいきとされる社会は、人間を尊重しない社会というほかありませんが、それを根底から揺るがす基本となるのが女性差別撤廃条約です。

しかし、日本政府は、コペンハーゲン会議の席上でようやく署名はしたものの、批准については前向きな態度を示していません。条約の批准へ向けて、今こそ炎となつて燃え上がるような行動を展開しましょう。「女性差別撤廃条約を早急に批准せよ」というハガキ

## 今月のなかみ

&lt;編集担当・あごら京王&gt;

表紙のことば 女性差別撤廃条約批准への道……福井 浅子……1	座談会 老後の問題は私たちみんなの問題……へあごら京王……2
私たちとベティ・フリーダン……関 和子……4	あけまして おめでと……各拠点・事務局……5
アビール ①子どもは母親の扶養家族にはなれないのか……6	②孤独のたたかひにご支援を
③働く女の年金が、主婦の年金より安い！	
事務局から 『あごら』24号編集会議のお知らせ、ほか……7	
お知らせ 女のつどい・女の講座……8	

## 女性差別撤廃条約批准への道

福井浅子

を、何枚でも何枚でも、批准される日まで、政府に出し続けましょう。電話もかけましょう。天の半分を支える女の底力を、今こそ發揮しましょう。女同士力を合わせれば、岩をも貫くものと信じます。

政府や国会を動かすとともに、私たち自身の身の回りにも、今すぐ実行できることがたくさんあります。

- ①女みずから「女のくせに」と言わないこと。
- ②女の足を引っ張るようなことをやめること。
- ③いやなこと、不当なことは、はっきり「いや」と言うこと。
- ④愛する夫や息子を決して戦場に送らないよう、徹底的に戦争に反対する。
- ⑤自己の自立と学習のために時間を使うよう心がけ、勇気を出して自分の力を試してみる。
- ⑥女の子も男の子も、同じ人間として平等に育てる。

数えあげてみると、このほかにもまだまだたくさんあります。私たちを取り巻く厚い壁を打破するために、まず自分の身の回りのことから実行していきませんか。険しくて長い女性差別撤廃条約批准への道も、そこから踏み固めていけるのではないかと思います。

## 〈あごら可能性教室〉新コース

## 〔再就職のための電算機入門〕

主婦の再就職は非常に困難ですが、電算機関係は求人が殺到しています。プログラマーを目指す方の入門コース。情報化社会の基礎知識を得たい方にも最適。講師の小川淑子さんは心理学出身、女性システムエンジニアとして聞かえた方。情熱をもって後輩を育ててください。文科系の方どうぞ。

- ◆費用 15回分1万円（非会員は3万円）

- ◆時間 毎週土曜10時～正午
- ◆その他、申し込みの方には直接ご連絡します。

## 〔英語によるマインド・コントロール〕

心身をリラックスさせて潜在能力を引き出すマインド・コントロールは世界35か国でブーム。わかりやすい英語で解説します。

- ◆時間 毎週第一、第三木曜、夜6時～8時30分

- ◆期間 2月5日（木）より10回
- ◆費用 10回分1万5千円（非会員は6万円）

- ◆講師 田中ジニーさん

（中級程度の英語聴き取り力が必要）

## 〔編集入門〕

- ◆時間 毎週水曜夜6時～8時

- ◆期間 1月21日（水）より10回

- ◆費用 10回分3千円（非会員は8千円）

- ◆講師 斉藤千代さん

- ◆会場はどれもへあごら読書室（地下鉄「新宿御苑前」下車すぐ）



あごら京王

# 老後の問題は 私たちみんなの問題

\* 川野 慶子  
\* 関 和 子  
\* 福井 浅子

\* 嶋田ゆかり  
\* 玉置 優子

**福井** “老後問題” っていうと何だかつまらない、若い人には関係のない問題という印象を持ちがちだけれど、大事な問題なのよね。誰もが確実に直面する問題であり、その時になって騒いでも遅いわけで、今から一人一人が自分のこととして考えたり行動したりしていかないと間に合わない。

**川野** 確かに“老後” っていうのは実感としてつかみにくいんですね。高齢者と若い人が対立してる感じで。別の段階にただで、けっしておたがい他人ごとではないはずなんです。

**玉置** そうですね。私は、老いて自分が社会的に価値がなくなるっていうことを自分で受けとめたときにね、どうなるのかしらって不安になっちゃうんです。

**福井** そうね。でも、そういうふうに感じないように普段から心がけることはできると思うのよね。自分のやりたいという目標があれば、老いても、その年代に応じたことができるんじゃないかしら。やっぱり、今から心がけとかなくちやね。

**嶋田** 私は、老いて友もなく愛する人もなく、自分一人で自分を律していかなくちゃいけないというのがすごく怖い。今までの形態だと、老いても結婚してて、子どもがいて、彼らに扶養されるというのが老後の暮らしのパターンでしょ。だから、このパターンからはずれた場合は肉体的、経済的にも困るし、精神的にもっと減入るでしょ。そうならないために、基金を作ってアパートを作り、助け合っって働いて暮らしていこうとか話すんです。

**関** あなたの年代でもそうですね？



川野さん

**嶋田** そうです。もう三〇歳ぐらいでね。  
**福井** 結構話されてるわけよね。ぜひ、老人ハウスを作りましょう。共同出資でね。  
**玉置** 私たちもそうですね。今は、結婚してる人も独身の人も行き来はありますけれど、このつながりをずっと大切にしたい、このつながりです。老いてからも一緒に暮らせる、そういう人間関係を作ってゆきたいし…。やっぱり不安なのよね。

## 四人に一人は

### 高齢者に……

**福井** そりゃ不安よ。それに、これから二十一世紀に向かってますます高齢人口がふえるわけでしょ。社会福祉のほうでは、大体六十五歳以上を高齢者っていうんだけれど、四人に一人は高齢者という時代がくるといわれてる。そういう時代がきたらどうしていいかわつちやいますよね。

**関** 本当にそうね。このインフレ、住宅事情からみても、今までのように家庭内で高齢者扶養の解決を図ることは難しいと思うの。公的年金、福祉施設とか介護のサービスなんかを、もっと充実してい

**関** 具体的にできることとして、少なくとも公的年金の既得権を良く知っとく必要があるわね。年金というのは、あくまでも自己申請でしょ。最低線そういうことは必要なんです。

**福井** そのために、学習会をもつて、

## 今から “養老保険”で準備を？

**福井** 銀行は預金してもらえばいいんでしょ。でも何かやらないと何も生まだせないし、点は線にはなりえない。やっぱり線が集まって面になるわけだから、何かやらなくちやね。

**関** そうですね。具体的にインフレというのがあるんだから、物価スライド方式をどの程度銀行で取り入れるかというのも問題ですね。利息を複利に運用したって追いつかない場合も十分に考えられるでしょ。

**福井** “老齢積立年金” っていうのを始めた銀行があるのよ。銀行が公的年金にかわって積立式でやるの。物価スライドがどうなってるかが心配だけれど。

**関** そうですね。銀行が公的年金にかわって積立式でやるの。物価スライドがどうなってるかが心配だけれど。

**川野** 個人が自分の老後にどこまで責任をもちうるんでしょう。現状のままで、増加する高齢者をまかないきれないのではと思うんです。

**福井** “老齢積立年金” っていうのを始めた銀行があるのよ。銀行が公的年金にかわって積立式でやるの。物価スライドがどうなってるかが心配だけれど。

老齢年金制度はどうなっているのかとか、他の国の制度はどうなっているのかというのを知る必要があるわね。

嶋田 そうして、そういうのをわかりやすい形で、もっと流布しなきゃいけないですね。一つの運動として。

玉置 私、民間でやってる「養老保険」というのに入ってます。「養老保険」というのが笑うんだけど、すごく切実な問題でね。病気になった時の入院費がで、老いた時に何かおいてくるというので捜してもらったんです。

関 病気の時の保障ね、あれは大きいですよ。私、今度大きい病気しましたでしょ。それで、最低の生命保険に入ってたんだけど、随分助かりましたよ。



玉置さん

関さん

## 通達ひとつで 福祉費はチョン

玉置 結局、国がやらないから自分たちで対策たてなきゃならないんですものね。

福井 そのへんですごく怒れるんだけどね。なんで国家が私たちの税金で福祉のほうを足切りして、軍備費なんかふやしてるのかってね。

関 具体的に、どの程度に足切りしてるのかしら。

福井 例えば、東京都では養育費、児童手当をもう出さないっていうの。母子家庭、未婚の母、離婚の場合は、家を飛び出したり、性格不一致はダメとかね。

嶋田 えっ、すごい逆行。

福井 そう、逆行なの、前はゆるやかだったんだけど、最近、通達が出されてね。それに抗議しようと、いろんなグループが動き出しているんですけどね。それから、都バスが高齢者は無料だったのに、その無料バスを没収するっていうの。

嶋田 それは、どういう名目で？

福井 都の経済が成り立たなくなるからですって。いえ、鈴木都政の本音が暴露されたわけですよ。

嶋田 いつも成り立たなくなるといって、すぐ福祉を切るとですよ。最後につけるのもそこで。

福井 こういうことは、あまり知らされてないでしょ。通達が出て、それでおしまいよ。どこにその憤りをもっていくの？いき場所がないでしょ。毎日生活に追わ



福井さん

嶋田さん

れていて何も言えないようなところを切っちゃうのよ。他のところだったら目に見えるし、文句がくるでしょ。だから、文句のこない弱いところを足切りするわけね。

玉置 通達って形でおわりなんですか？

福井 そう。各団体にあらかじめ通達があったから知ったわけで、説明を聞きにいったら、もう決まっちゃってるのよ、草案が。

関 都議会には野党もいるんですよ。女性議員だっているわけでしょう。

福井 本当に何してるのってかんじね。やっぱり常にアンテナを高くしてないとひっかかってこないし、運動体として動くからにはその辺はおろそかにできない、何らかの形で訴えていかなければならないと思いますね。

さて、時間もきたようですが、今回は有意義な学習会になったと思います。次回は、救済という発想を超えた、高齢者保障、社会的扶養制度の確立ということを第3章で考えてゆきたいと思います。

テキスト・有斐閣双書「老齢保障論」  
(嶋田・川野記)

あごら23号

## 女たちは いま変わる

世界会議のすべてが詳細にわかる報告書。公式会議、フォーラムの内容、パネリストの発言要旨、日本女性主催したワークショップの報告、参加者の感想文、座談会、取材記者へのアンケートなどが三三六頁を埋めている。緻密で周到な実に女性らしい編集ぶりだ。また差別撤廃条約の解説と国内法改正にかかわる各省担当者のインタビューも目玉。行動プログラムの全訳、本会議の諸決議、ワークショップのテーマに至るまで盛り込まれたすばらしい一冊で、学習会の資料にも好適。(12月31日新聞より)

¥1500 丁250

## 潜在脳力開発法

人間の脳の力の90%は眠っている。それを生かすには……。世界35か国で話題のマインド・コントロール法を紹介。

¥1200 丁200

〇〇〇出版部

## 私たちと

## ベティ・フリーダン

関 和子

全米女性組織「ナウ」の創始者、ベティ・フリーダンが国際女性学会の招きで来日した。講演が有楽町のホールで行われる事を新聞で知り往復はがきを出して入場券を手に入れた。あの女性解放運動家に会える、生の声を聞けるのだと期待をこめて会場に出かけていった。

フリーダンは「フェミニン・ミスティック」(邦題「新しい女性の創造」)を一九六三年に出版した。これは、アメリカのウーマン・リブ運動の初期のバイブルとさえいわれた本だが、やはりアメリカの歴史の必然が、この本を生み出したには違いないなどと思う。戦後、男たちが職場に、大学に復帰し、軍需産業が平和産業に切り替わり大型消費財が生産された。戦中男たちに代わって職場に出ていった女性には家にもどり、専門職の女性が仕事を中途にして家庭に入り、女性の結婚年齢は引き下り、大学を中退してでも礼賛された主婦業を選んでいた。そして女性らしさが尊重され、郊外の一軒家に車二台、テレビ二台、子どもがいて高い収入のある主人と生活を楽しむ。それが女の幸福とされた。しかし、そうした生活にある女たちは、実はどこにぶつくて良いかわからない、いらいら、不安に悩んでいたのだった。家について出口のない思いに苦しんでいた女たちはフリーダンの「新しい女性の創造」に共鳴し、野火のひ

ろがりのように全米に読みつがれていった。

そして一九六六年全米女性組織「ナウ」が結成された。東部海岸地域を始めとして全国に支部が作られ、七つの特別委員会が組織された。即ち、①雇用における女性差別、②教育における女性差別、③宗教における女性差別、④家族、⑤マスメディアにおける女性像、⑥女性の政治的権利と責任、⑦低所得階層女性の問題であった。翌年大統領に新しい政令公布の署名をさせるほどの政治的圧力団体に成長するに至った。その後、この女性解放運動は急進派と保守派に分裂、本部と支部の意識のずれによる亀裂がありながらも、米国の女性解放グループ最大の組織となり、明らかに社会の流れを変える原動力となつて、今日に至っている。

フリーダンは講演の中で特に自分たちの運動は、今、第二期にあるという事を強調した。第一期は女性の機会平等獲得、伝統的な女らしさからの解放であった。そのため女性対男性、つまり男性を敵対した女たちだけで女たちのために運動してきた。そして今から思えば過激な運動、例えば夫たる男性に対抗すべく、子育てを放棄したりした。

我々の運動は今、男性も一緒に人間として共感し連帯している。新しい家族、親としての務め、職業、家庭内外における男女の役割を見つめなおす第二期

の運動に入った。例として、映画「クレイマー・クレイマー」のヒーローが非人間的な仕事だけに明けくれた生活から、妻の家に子どもとの関係を余儀なく見なおし、改めて親として子どもに接し、今までと異なった心のふれ合いのある親子関係が生れた。第一期が新しい女性の創造であれば、第二期は今までと異なった価値観で自己を確立する、男性も含めた共存の時代である。

この彼女の講演に少し意外な気がした。私個人の独断と偏見から私は第一期と彼女が分析した過激な運動の方法論を期待したのだった。「ナウ」の創設当初の声明の一部に「両性のパートナーシップにより結婚観の変化、家庭や子どもに対する責任、家族を扶養するための経済的責任を平等に分担すべき必要を確信するものである」とある。そこから推せば第二期と画するほどに運動の流れが異なってきたのであろうか。

彼女たちが初期、法の下の平等と正義をかかげ行政府にまををしばらく政令の修正に成功した話をもっと聞きたかった。

私たちが今当面している一九七九年の十二月、国連総会で採択された婦人に関するあらゆる形態の差別撤廃条約を政府に批准させるよう働きかける運動と共通なものはないかと思つたわけである。私たちの運動は有効な男女雇用平等法を政府にせまる程強くなつてはいない。経済先進国といわれたつて実体は皆の知る所である。あごらミニ掲載の中島さん講演のまとめの最後に「すべての女の性を切り捨てする事なく平等にあらゆる場に参加

していくことができるようになる社会、人間らしい社会を実現すべく有効な男女雇用平等法の運動をおし進めよう」とある。深く共感する。私たちの出来る方法で、女性差別撤廃条約を政府が早く、完全に批准するよう働きかけようではありませんか。

## あなたも

## 詩詠つくり

## 参加してみませんか?

自分の内の一歩柔らかい部分をみつめ直し詩にしてみませんか。そして女の視点から生と性などを問い直し、書き留めていこうという詩づくりをする女の仲間はいませんか。

詩誌同人を募ります。

## 連絡先

〒336 浦和市南浦和

二一九八 国井マツ江

## 電話

〇四八八(八七) 三六八〇







## アビール① 子どもは母親の

### 扶養家族にはなれないのか

K・H

働いている女は、扶養家族もロクに持てないハンパ労働者なのか、とつくづく思い知った私の体験をひとつ――

この八月に次男を産んだ。長男は夫の扶養家族になっており、二番目のときは印刷会社の従業員である私の扶養家族にしようかと前々から考えていた。産休が明けてすぐ出産届と扶養家族の変更届を出すと、会社は所得税法上の扶養家族としてすんなり認め、五千円の扶養家族手当もついた。

ところが問題はそれからだった。健康保険証を提出してから一か月も、健保組合のほうから通知がないのだ。総務課の説明によると、健保組合で書類を受けてくれないのだという。税金のほうで扶養家族を認めながら健康保険だけ夫のほうにしたら、と本来扶養者はひとりのはずなのに矛盾したことを勧められもした。私は保険証がない間、私も子どもも医者にかかれなから困る、と何度も追った。

しばらくしてやっと返事がきた。夫の昨年の源泉徴収票を出せ、というのだ。それから十八歳未満の子を扶養する場合には必要のない「被扶養者現況届」というのも出せという。それには本人と家族の一月分の所要家計費とそれぞれの家計負担額を記入しなければならない。夫が現在病気休職中で将来も不安だという

入院先その他詳しく書けという。私はふんまんやる方なしの思いで書いた。結局のところ、私と夫の昨年度年間所得に二十三万円の差がある（このこと自体私たちがいかに低所得者であるかを物語っているのだが）ことと、夫の半年以上の病気休職を理由として認めるほかなかったのだろう。無事私は扶養家族を持つ身になった。

しかしながら、健康保険組合の規定には、女を扶養者にしないとうたっている。ただ十二年前の厚生省通達で、二重の資格取得を防ぐための規定があつて、扶養者は原則として男、大幅な所得の差（三割以上）がある場合は女も認めるなどとしており、それを楯にとっているわけだ。わが印刷健保はひとりでも病気持ちを入れず、できるだけ金を出さないようにしているのかと恨んだけれど、実は憎つてき敵は厚生省であつた。

晴れて扶養家族をもつて一か月、総務課員は私の顔をみると「ご主人の病気はどう？ 元氣になつたら扶養家族を変えたいって労務士の先生が言つてたわヨ」と言う。病夫と子どもを抱えて奮闘（？）中の女にはお情けをかけたというわけ。たたかいはまだ継続しているのである。（今度は夫もろとも扶養家族にしたいなつたほど闘志は燃えている！）

## アビール②

### ホテル・ニューオータニ訴訟

#### 孤独のただかいに支援を

鍋島 治子

私は現在、ホテル・ニューオータニを

相手どつて係争中です。争点は、労災治療中の解雇撤回（労基法一九条、解雇制限違反）、男女十年差別定年解雇撤回、定年差に基づく年金差別請求、誤診と不法行為の損害賠償請求です。

ことの起りは、昭和四十年四月。倉庫内で作業中転倒、会社医は、完治一週間の捻挫と診断し、ゼノール湿布をしただけ、会社側も痛がる私を一人住いのアパートへタクシード運んだだけでした。翌日からは身動きできぬ激痛であつたのに放置され、また労災の手続きもされませんでした。

出勤後も続いた痛みは、会社医の施す低周波療法では一向にとれず、東大病院に行き、腰椎骨折、小脳障害、治療期間に未定と診断されました。しかし会社側は休業を認めなかつたので、労基署に訴えました。

労基署の事情聴取にホテル側は、「受傷の瞬間を見ていたものがないので、労災かどうかわからない」と否定しましたが、それは通らず、労基署命令で、やっと休業が認められたのです。しかし会社側はあくまで労災の手続きをせず、偽りの受傷現場の書類まで作成し、「これに捺印せよ」と追いかけてまわす始末。それを拒否すれば、会社内で一番空気の悪い部署に配転し、あれやこれやのいやがらせ。そして、治療が終わらないうちに、定年がやって来ました。ホテル・ニューオータニでは、女の定年は男より十年早いのです。私は定年通達は受けとりませんでした。私は組合のない職場で一人で交渉するには限度があります。体を治さね

ばということもあり、やむなく嘱託契約に捺印しました。

嘱託にされたうえ、慣れた仕事は下請けに切り替えられ、空気の悪い倉庫で仕事をさせられたり、重い荷物を四階から地下へ運ばされたり。病院から休むように言われましたが、嘱託では休業即減首の可能性があり、無理を重ねていううちに、再び入院しました。

この間のホテル・ニューオータニのいやがらせは、常軌を逸していました。例えば、一〇〇%の給与よりも、スライドされた八〇%の休業補償のほうが三割も多かったほどの低昇給は、あまりといえはあまりです。それは、厚生年金の支給額にも影響するのです。ということは、その影響は一生続くということなのです。定年差別も同じように影響し続けます。

しかも、老後の人生を設計し準備するために一番大切な時期を台なしにしてしまったのです。これらは、とうてい許されるものではありません。この許せないという思いが、何もわからぬまま私を提訴に踏みきらせたのです。

お金もなく、家族もない、独身で働き続けた孤立無援の女が、いま苦境に立っています。ご支援くださる方は、ご連絡ください。

## アビール③

### 働く女の年金が

#### 主婦の年金より安い！

A・K

今、ここに二人の女がいる。二人とも同じ六〇歳。だが、一人は三〇年間働

## 事務局から

続け、もう一人は主婦としての日々をおくってきた。一人は働き続けるために、夫も子どももたず年老いた。老後の保障は年金以外何もない。かたや、主婦には夫の年金、子どもの援助、それに彼女自身の年金もある。私は今まで、主婦の年金は、年金としての最低額だと信じこんできた。だから、主婦の年金が上がったときには、文句なくいいことだと思ったものである。ところが、ある事例を聞くにつれ、次第に複雑な気持ちになってきた。その事例とは、三〇年間一生懸命働き続けた女が手にした年金が主婦の年金より安い、というものであるのだから、驚き憤り、複雑な気持ちになるのは私一人ではないと思う。

この事例の鍋島治子さんは、ホテル・

ニューオータニを相手どり係争中である。その訴え事項の中にもあるように、ニューオータニは、男女十年差別定年を平然と続けている。鍋島さんは、労災治療中に解雇され、老後の見通しもたないまま年金暮らしを余儀なくされている。そして、その年金の少なさに呆然とし、それが、女の低賃金、早い定年に由来することに気がついたのである。

現在の厚生年金の計算は、勤続月数に比例し、かつ全勤続中の平均賃金にこの勤続月数をかける方式がとられている。つまり、計算方法は次のようになる。

① 勤続月数  $\times 1.60\text{円} \times \text{標準月賃} \times \text{標準月}$

ラ・ト・ト

② 勤続月数  $\times 1.60\text{円} \times \text{標準月賃} \times \text{標準月}$

標準月賃  $\times \text{標準月}$

近づく戦争の足音の中に迎えた新春。何よりも平和を祈らずにはいられません。

▼「あごら」24号編集会議は1月14日

テーマ「女と情報」をめぐる、暮には結論が出ないまま持ち越しました。テーマが自分にとってどういう意味を持つかということから掘り下げて考えてみたいと思います。編集を全く知らない方でもかわれる会議です。新しい方も大歓迎。時間は6時～9時。読書室で。第2回は1月23日(金)の予定。

▼運営会議は1月15日(祝日)11時～7時

今年度活動計画・予算・役割分担等、一日かけてパッチリ討論します。

▼国連総会で「後半期世界行動プログラム」採択

昨年十二月の第34総会で、反対3(アメリカ・イスラエル・カナダ)で採択。諸決議も承認されました。85年に世界婦人会議が開かれることも確定しましたが、開催地は未決定(現在ケニアのみ立候補)。国連婦人の地位向上部長久保田真苗さんのお話では、平等・発展に向けては着実に歩み出しているが、平和が一番心配とのこと。なお、総会のくわしい報告は、1月24日(土)1時半から婦選会館であります。報告者は中村道子さん。

▼可能性教室に新コース

①+②=③の計算式を見れば、給与の額、定年の早い遅いの影響は非常に大きく、定年の差別は、それこそ死ぬまで続くことが一目瞭然であろう。そこで、定年十年差別による年金差を計算してみると、  
①  $1.60\text{円} \times 120\text{月} (10\text{年} \times 12\text{月}) \times 80\text{円} (60\text{歳}-80\text{歳}) = 3,960,000\text{円}$   
②  $1.60\text{円} \times 120\text{月} \times 20\text{円} = 3,960,000\text{円}$   
③  $1.60\text{円} \times 120\text{月} \times 20\text{円} \times 10 = 3,960,000\text{円}$   
大ざっぱに言って、①の二倍が金額概算と言われているので、二倍すると(この場合、給与が一六万五千円という計算)、七九二万円というのが、定年十年差別による損失。  
また昭和五十四年の女の平均給与は男の五四％であったので、大ざっぱに二分の一で計算してみると、給与差による年金差は、  
 $3,960,000\text{円} \times 2 = 7,920,000\text{円}$   
となる。だから、十年定年差別と給与差による年金差額一、五八四万円。ここでは物価スライド率は全然考慮していないし、実際にはもう少し複雑な計算をするが、普通の女の年金の、大ざっぱな数字はつかんでいるだろう。女は働く場で差別され、給与で差別され、年金ですら一千万円以上差をつけられる。

主婦が自分の年金を確保できるのは、まことに結構であるし、またその額は高いにこしたことはない。しかし、その確保、増額の前に、厚生年金がその福祉的性格を発揮するように、つまり働く女に不利になる算出法を改めることが先決問題ではないだろうか。

く本です。二期待ください。

▼23号早くも品切れ?

大みそかの毎日新聞に23号についてたいへん好意的な紹介が出たせいか、新年早々注文殺到。手持ちの23号がほとんどなくなりました。注文の声は、なぜかほとんど男性。「大みそかの新聞なんて読めるのは男だけでしょ」とヒガム声も……。しかし、婦人面の女性差別撤廃条約の記事を読んだとすれば、関心のある男がふえたということかも……。何にせよ、こいつは春から縁起がいいわね!!  
きびしい寒波のよう。皆様おかせなど召さぬよう大切に。よい一年を!



## 〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	ー	マ	会	場
1月11日(日)13:30～		あごら浦和・例会				コミュニティーセンター 浦和駅下車
14:00～16:00		離婚分科会 〈行動を起こす女たちの会〉				ジョギ
13:00～17:00		結婚の意味を問う継続討論 連絡先 藤村方 03-354-2543				渋谷勤労福祉会館
14日(木)18:30～		あごら24号編集会議				あごら読書室
15日(木)19:00～		“マゼンダ” ロックコンサート 1,000円 連絡先 0488-64-7676				ライブハウス 屋根裏 03-464-6031
11:00～19:30		あごら運営会議				あごら読書室 03-354-9014
16日(金)13:30～15:30		市川房枝を囲む新年懇談会 (無料)				婦選会館 03-370-0238～9
18:30～		あごら北東京・例会				婦人協同法律事務所
17日(土)13:30～16:30		「性差と教育」家庭科男女共修をすすめる会 集会				婦選会館
		講師 柏木恵子 会員 200円 一般 300円				
17:00～		私たちの男女雇用平等法をつくる会 新年会				忍 (四谷)
19日(月)10:00～12:00		日本の政治を考える 婦選会館政治教室 講師 法政大学教授 岡村忠夫				婦選会館
		1月19日～3月23日(月曜日) 聴講料 3,750円 (全5回)				
21日(水)10:00～12:00		財政危機と国民生活 婦選会館経済教室 講師 法政大学教授 花原二郎				婦選会館
		1月21日～3月25日(隔週水曜日) 聴講料 4,500円 (全6回)				
18:30～21:30		あごら京王・例会				福井宅 京王仙川下車5分 03-308-7871
18:00～20:00		あごら可能性教室「編集入門」開講 (毎週水曜日)				あごら読書室
23日(金)10:00～12:00		あごらを読む会				仙台市民教養センター 0222-22-2038
18:30～		あごら24号編集会議				あごら読書室
24日(土)10:00～12:00		あごら可能性教室「電算機入門」開講				あごら読書室
25日(日)12:00～16:00		あごら柏・例会 「主婦とおんな」読書会				柏市旭町近隣センター
28日(水)13:30～15:30		暮らしと政治 婦選会館社会思想講座 講師 東京大学教授 有賀 弘				婦選会館
		1月28日～3月25日(水曜日) 聴講料 3,000円 (全4回)				
18:00～21:00		結婚の意味を問う継続討論 連絡先 藤村方 03-354-2543				渋谷勤労福祉会館
31日(土)13:30～16:30		いま、女が戦争に加担しないために				渋谷勤労福祉会館
		国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会 定例会				
2月7日(土)10:00～16:00		国の婦人関係予算案をきく会 総理府、文部省、厚生省、労働省、農林水産省の各担当官より説明 参加費 1,000円 <主催 日本婦人有権者同盟、婦選会館>				婦選会館
13:30～16:00		あごら23号合評会				あごら読書室
16日(月)18:00～21:00		デンマークのビデオを見る会 <日本北欧文化協会> 入場料 500円 連絡先 酒井れい子 03-724-0579				国立教育会館・虎の門ホール

### 各地のあごら連絡先

- あごら旭川
  - ・旭川市神楽岡一条五丁目3 田代慶子
  - ☎ 01166665 6237 7078 11
- あごら札幌
  - ・札幌市中央区南25西12 ニュール藻岩5003 高橋芳恵
  - ☎ 01115633 6917 7064
- あごら浦和
  - ・埼玉県浦和市南浦和2-19-8 国井マツ江
  - ☎ 04888877 3680 7336
- あごら柏
  - ・柏市豊四季台3-1-68 古賀節子
  - ☎ 0477145 6724 2277
- あごら北東京
  - ・豊島区東池袋145 山崎金子 02 婦人協同法律事務所 内村由美子
  - ☎ 985 3308 7170
- あごら武蔵野
  - ・小平市小川町1の7 63の8 6 丹羽雅代
  - ☎ 042343 6749 7187
- あごら京王
  - ・調布市仙川町3-12-32 福井浅子
  - ☎ 033308 7871 7182
- あごら神奈川
  - ・川崎市多摩区東生田2-2-12 森山方 沼田千恵子
  - ☎ 044933 9079 7214
- あごら東海
  - ・愛知県愛知郡東郷町和合ヶ丘1-12-9 伊藤汎美
  - ☎ 05613 9238 7470 01
- あごら京都
  - ・京都市左京区北白川久保田町36-4 塚崎美和子
  - ☎ 0757791 4623 7606
- あごら大阪
  - ・吹田市出口町30-20-7 03 北垣由民子
  - ☎ 06387 0916 7564
- あごら九州
  - ・福岡市西区笹丘2-4-6 小島豊子
  - ☎ 092521 7624 7810